

JAF広報2015-035-2

2015年10月28日

あなたのタイヤ、空気圧は大丈夫？

空気圧低下は見た目や運転で判断できるのかをテスト検証

JAF（一般社団法人日本自動車連盟 会長 小栗七生）は、「タイヤの空気圧低下は見た目や運転で判断できるのか？」をテーマとするテストを行い、検証した結果をホームページに公開しました。

タイヤの空気圧不足は燃費の悪化や偏磨耗、パンク、バーストの原因になります。「タイヤのパンク」はJAFの救援依頼のうち、「バッテリー上がり」に次いで2位となっており、増加傾向にあります。ドライバーが定期的にタイヤの空気圧をチェックすることが大切ですが、近年、セルフ式のガソリンスタンドが増え、タイヤチェックなどを行う機会が減り、意識が低下しているのかもしれませんが、最近のタイヤは扁平率が低く、空気圧低下が見た目では分かりにくくなっていると言われます。そこで、見た目や運転によりドライバーは空気圧の低下に気づくかどうかを検証しました。

テストはタイヤサイズの異なる3台を用意し、3名のモニターで目視と運転の2種類のテストを実施。目視のテストでは、適性空気圧のタイヤを見た後、空気圧を1/2にしたタイヤを見て、低下に気づくかどうかを検証しました。

結果は、一般的な扁平率である65タイヤでは、3名全員が空気圧の低下を正しく判断できたが、45・50タイヤや80タイヤは全員が誤った判断をした結果となった。



適性空気圧
の50タイヤ



適性空気圧の1/2しか入
っていない50タイヤ。適
性空気圧の50タイヤと見
分けが付きにくい

運転のテストでは、45タイヤと65タイヤをそれぞれ装着した同一車種2台を用意し、どこか1輪のみ空気圧を1/2に減らした状態で運転し、空気圧の減ったタイヤの位置が分かるかを検証した。

その結果、右後輪の空気圧を1/2にした場合は45タイヤ、65タイヤとも3名中2名が正解したが、左前輪の空気圧を1/2にした場合、65タイヤは3名全員が空気圧不足に気付いたのに対し、45タイヤは2名が気付かない結果となり、扁平率の低いタイヤの方が空気圧の低下に気づきにくい事が判明。



適性空気圧の1/2の65
タイヤ。外見からも見分
けが付きやすい。



適性空気圧の1/2の45
タイヤ。外見からも見分
けが付きにくい。

これからの気温が低下する時期は、空気の膨張率も下がるため、空気圧も低下しやすいので注意が必要です。また、走行直後は熱で空気圧が高くなっているため、タイヤが冷えてから計ることをお勧めします。

■ JAFユーザーテスト（資料編）「見た目や運転で分かる？ タイヤの空気圧低下の検証」

http://www.jaf.or.jp/eco-safety/safety/usertest/tire_pressure/detail1.htm

このリリースへの問い合わせは以下までお願いします。

一般社団法人 日本自動車連盟 広報部

Tel : 03(3578)4920 Fax : 03(3578)4912

E-Mail:koho@jaf.or.jp URL: <http://www.jaf.or.jp/>

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館